# 大泉学園中学校
# 大泉学園小学校･大泉学園緑小学校

**学力・体力の向上**

- **基礎的基本的な学力を身に付けた児童･生徒**
- **自信をもって進路を開拓していく児童･生徒**

**豊かな人間性・社会性の育成**

**安定した学校生活**

**実現に向けた取組**

1．10 の分科会での小中教員の交流と課題改善ｶﾘｷｭﾗﾑ作成（実践･見直し）
2．6 年生の中学校生活のｲﾒｰｼﾞ化（中学校訪問、部活動体験と見学、授業体験）
3．校長連絡会と養護教諭部会の設置（小中学校の児童･生徒の情報交換）

**教員研修会･教科別分科会**

- 小学校の学習が、中学校にどうつながるのか理解できた。
- 中学校に入学してくる児童の様子が事前につかめ、その後の指導に生かせる。

**6 年生の中学校の授業体験**

- 中学校の授業は、少し難しそう。でも、中学校に行くのが楽しみになりました。
- 小学校の学習が土台になっていたので、今の 6 年生の勉強を頑張りたいです。

**中学校の部活動紹介**

- レベルが高く、楽しそうな部活がたくさんあって、どれに入るか迷います。
- 先輩たちがとても優しく教えてくれたので、うれしかったです。

**成果と課題**

- 年間３回の校区別協議会での活発な議論により、小中学校の教員の連携が深まった。
- 中学校生活への不安を減らし、期待を高めることができた。
- 児童･生徒指導に関わる情報交換をより充実し、児童･生徒の健全育成という視点に立った実践をさらに進めていく。

小中一貫教育実践校

# 大泉学園中学校・大泉学園小学校・大泉学園緑小学校

**中学校区の特色**

・10の分科会設定による小中学校の教員の交流と情報交換
・教科指導の課題を共有する課題改善カリキュラムの作成、実践、見直し、改善
・児童の中学校訪問、授業体験、部活動体験と見学

**目指す児童生徒像**

３校のグループの児童生徒は前向きで教師の指導を素直に受け入れる子供が多い。反面少々の躓きで友人関係を損ない、学習意欲や登校意欲をなくすことがよく見られる。そのような実態に鑑み以下の目指す児童生徒像を掲げる。
・基礎的基本的な学力を身に付けた児童生徒
・自信をもって進路を開拓していく児童生徒

## Ⅰ　小中一貫教育の推進

### 1　目指す児童生徒像に向けて

(1) 学力・体力の向上

・全ての教員が小中一貫教育に主体的に関わるため、10の分科会を設定した。課題改善ｶﾘｷｭﾗﾑの作成、実践、見直しを通して、小中学校の教員が互いの理解を深めていく。

中学校体験授業の前に6年生が中学校長から話を聞いているところ。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

・不登校・問題行動・特別な支援を要する児童生徒についての協議と日常の情報交換。
・6年生児童の中学校訪問、授業体験、部活動体験・見学を通じた中学校生活のｲﾒｰｼﾞ化。
・大泉桜学園についての講演会を行い、小中一貫教育についての教員の理解を深める。

(3) 安定した学校生活

・養護教諭分科会を設定し、児童生徒や保護者に関する情報交換を行う。校区別協議会をきっかけに、日常的に児童生徒に関わる情報交換を各教員同士が行えるようにした。
・部活動体験や中学校での授業体験を行うことで、6年生児童に中学校での学習や生活の見通しや目標を持たせる。

### 2　教育プラン推進のための推進組織

小中一貫研究　校長連絡会
↓
小中一貫教育研究推進委員会
校長、副校長、小中連携クリエーター
↓
校区別協議会　年３回の全体研究会
↓
研究分科会
小中の教員による各教科領域等の分科会

**主な予定（年間計画）**

・5月　校長連絡会、研究推進委員会
・6月　校区別協議会
・8月　校区別協議会　小中合同講演会
・9月　小中校長連絡会
　　6年生授業・部活動体験
・10月　研究推進委員会
・11月　校区別協議会
・12月　研究推進委員会

## II　実践校の特色ある取組

### 1　成果と課題

(1) 学力・体力の向上

・年間 3 回の校区別協議会で設定した 10 の分科会すべてで、小中学校の教員の活発な議論が展開された。6 月の校区別協議会では、課題解決カリキュラムの重点目標について各教員が共通理解し、8 月の校区別協議会で内容を見直し、11 月の校区別協議会で、小中で実践した内容を持ち寄り各教科の 9 年間を見通したカリキュラムを考えていった。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

・生徒による 6 年生に向けての中学校についての説明や、部活動体験での先輩後輩としてのふれあいを通して、児童生徒の豊かなかかわりをもたせることができた。

・児童が中学校に行って中学校の教員の授業を受けたり、中学生による生徒会・部活動・海外派遣等の説明や報告を受けたりした。中学校生活での不安を取りのぞき、児童の中学校生活への具体的なイメージ化につながり、中１ギャップの解消につながっていくと思われる。

・校長連絡会では、小中一貫教育を進めていくという話だけではなく、課題のある児童や生徒・保護者に関する情報も積極的に交換した。児童生徒への指導方法や保護者対応について大きなヒントを得ることができた。

(3) 安定した学校生活

・小中一貫教育の実践について、基本方針を小中校長連絡会で立案し、クリエータを中心とした推進委員会で具体化し、3 回の校区別協議会を充実させてきた。教員の連携が深まったことが、児童生徒の安定につながっていった。

・養護教諭分科会は小中学校の児童生徒や保護者対応に関する３校の連携に大きな役割を果たした。兄弟に関する情報交換は特に有効であった。特別な配慮を要する児童生徒についても、小中学校で同じような対応の仕方を考えていくことができた。

・児童の中学校訪問、授業体験、部活動体験見学は確実に中１ギャップの解消につながるとともに、中学校入学後のイメージを抱かせることができた。

## III　今後の取組

今後は生活指導に関わる情報交換を今まで以上に充実させ、３校の児童生徒の健全育成という視点に立った実践をさらに進めていきたい。

・中学校の卒業後の進路選択に際して、小学校の学習がどのように生かされていくのか、小中学校の教員同士で情報を共有できるようにしていきたい。

・次年度は 6 月の校区別協議会を小中一貫教育校大泉桜学園で実施し、桜学園の実践を今後の大泉学園中校区の小中一貫教育に生かしていきたい。